

2025.9.30 常任理事会

当学連は、2030 年に創立 50 周年を迎える。過去の歴史を遡り周年を祝った経験は、当連盟としては 2020 年に実施した全関西大会 40 周年のみである。このとき、荒木副会長が当時長く学連運営の実務の中心を担ってこられた経験と蓄積を活かし、創立期からの概略年表を作成され、それが当日お披露目され、現在もその資料が過去記録のベースとなっている。

当学連として、それ以外に歴史を振り返るための素材や資料はあまり残されていないと推測される。毎年、運営の中軸を担う学生委員構成が変更されることから、継続的に資料を整理するという考えが乏しく毎年度の大会運営、組織運営に軸足があったことは否めない。

そこで、50 周年まであと 5 年となった本年より、記念事業の準備を開始することとする。その基本的な枠組みは次のとおりとする。

## 1. ターム

### ・構想検討期 (2025・2026 年度)

構想検討委員会の設置 委員長：野老会長、委員長代理：荒木副会長、  
委員：中大路顧問、白井顧問、安田参与、坂井専務理事  
事務局：西川運営管理本部長、古本総務部長、柳生理事

検討事項 どのような事業を行うかについての検討

当連盟の歴史に詳しい識者（細川顧問等）からの意見聴取

記録および写真等の収集、整理

協賛協力企業への周年事業への支援要請 など

2026 年度 3 月理事会までに報告、構想決定する（途中必要に応じて理事会報告する）

### ・構想具体化期 (2027・2028 年度)：構想具体化委員会の設置を想定

### ・構想実施期 (2029・2030 年度)：実行委員会の設置を想定

## 2. 財政計画とその執行

・構想検討にあたり、2025 年度～2029 年度までの 5 年間、1 か年につき 40 万円（5 年で 200 万円）を積み立てる（2026 年度以降は、予算化する）。

・構想検討委員会において、事業予算案を作成する。2025 年度・2026 年度の取り組みに関しては基本的に支出を想定せず、必要な場合は、経常的経費のなかから総務部長判断で執行とする。

・2027 年度以降は、構想検討委員会の検討を踏まえ、理事会として予算化したうえで、取り組みを進める。

## 3. その他

・当面の取り組みとして、荒木副会長を中心に、野老会長、白井顧問、中大路顧問（+事務局）で周年事業のイメージすり合わせを行う打ち合わせを設定し、それを踏まえて構想検討委員会をスタートさせる。

・学生委員会の参画については、学生委員会担当本部長、学生委員長で協議して決定する。

（以上）